

THUNDERBIRD® SYBR® qPCR Mix

作成：2009年1月5日

改訂：2015年6月22日

整理番号 1731A



## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	THUNDERBIRD® SYBR® qPCR Mix
製品コード	QPS-201, QPS-201T, QPS-219CH
供給者の会社名称	東洋紡株式会社
住所	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
担当部門	ライフサイエンス事業部
電話番号	06-6348-3786
FAX番号	06-6348-3833
推奨用途および使用上の制限	Realtime PCRによるDNAの定量（研究用試薬）

## 2. 危険有害性の要約

重要危険有害性	
有害性	有害性に関する調査が不十分なので、取り扱いには注意する。
GHS分類	分類できない

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物	
化学特性	酵素、基質等の水溶液	
パーツ名	主要成分	CAS No. (EC No.)
<THUNDERBIRD™ SYBR® qPCR Mix>	トリス（ヒドロキシメチル）アミノメタン	77-86-1
	デオキシアデノシン三リン酸	1927-31-7
	デオキシシチジン三リン酸	102783-51-7
	デオキシグアノシン三リン酸	93919-41-6
	デオキシチミジン三リン酸	18423-43-3
	添加剤①	非公開
	DNAポリメラーゼ	(EC 2.7.7.7)
	タンパク質(マウスモノクローナル抗体)	-
	SYBR® Green I	163795-75-3
<50x ROX Reference Dye>	ROXリファレンス色素	-
危険有害成分		
化学名又は一般名	添加剤①	
別名	非公開	
含まれるパーツと含有量	THUNDERBIRD SYBR qPCR Mix: <15%	
化学特性（化学式）	非公開	
CAS番号	非公開	
官報公示整理番号	登録済み	
化審法：	公表	
安衛法：		



## 安全データシート

### 4. 応急措置

吸入した場合	直ちに新鮮な空気のある場所に移し、気分が悪くなった場合は医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水で十分洗い流す。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受ける。
飲み込んだ場合	可能であれば吐き出させ、直ちに医師の手当てを受ける。

### 5. 火災時の措置

消火剤	水、二酸化炭素、泡消火剤、粉末消火剤
消火を行う者の保護	消火は風上から行う。 大規模な火災の場合は呼吸用保護具を着用する。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業を行う際は保護具を着用し、眼・皮膚への接触や吸入を避けるように注意する。
環境に対する注意事項	河川に直接流れないように注意する。
除去方法	可能な限り、減圧で吸引したり、ウェスなどに吸収させて密閉式の空容器に回収する。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	人体への接触に対して十分に配慮する。
注意事項	目、皮膚、衣服への接触を避け、取扱い後は手を充分洗浄する。
安全取扱い注意事項	取扱い場所を常に整理整頓し、清潔に保つ。
保管	
適切な保管条件	密閉容器にて-20℃で保管する。
安全な容器包装材料	本製品に使用されている容器内で保管する。

### 8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	添加剤
日本産業衛生学会勧告値	設定されていない
ACGIH TLV	設定されていない
OSHA PEL	設定されていない
保護具	
呼吸器の保護具	必要に応じて防塵マスクを着用する。
手の保護具	ゴム手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて実験着等を着用する。

### 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状	常温で液体、-20℃では固体。
色、臭い	無色透明、ほとんど無臭
pH	7.0~9.0
引火点	水溶液のため引火性はないと考えられるが、THUNDERBIRD™ SYBR® qPCR Mixは水分蒸発後131℃の引火点を持つ添加剤が残留する。
爆発特性	常温では爆発性はない。
密度	1.0~1.2
溶解性	水に可溶



## 安全データシート

### 1 0. 安定性及び反応性

安定性	-20℃で安定
反応性	通常の条件下では安定である。
避けるべき条件	高温、直射日光、火災などによる強熱、強酸化剤、還元剤
危険有害な分解生成物	知見なし

### 1 1. 有害性情報

急性毒性	データなし
生殖毒性	データなし
局所効果	目や皮膚の粘膜を刺激し、結膜炎などの炎症を起こす可能性がある。
各成分の有害性情報	添加剤
急性毒性 (LD50)	マウス経口： 4773mg/kg
発癌性	
日本産業衛生学会勧告値	記載なし
ACGIH TLV	記載なし
OSHA PEL	記載なし

### 1 2. 環境影響情報

移動性	水溶性あり、水系に拡散する。
残留性・分解性	データなし。成分中の1,3-プロパンジオールは生分解性あると考えられる。

### 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	少量であればペーパータオルやウエスに吸収させて焼却処分する。その施設・地域の廃棄規則に準じて、廃棄物処理専門業者に処理を依頼する。
汚染容器・包装	その施設・地域の廃棄規則に準じて廃棄する。

### 1 4. 輸送上の注意

国際規制	国連勧告の定義上の危険物に該当しない。
国内規則	輸送に関する法規制には該当しない。
輸送の特定の安全対策及び条件	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

### 1 5. 適用法令

輸送に関する法規制は、14. 輸送上の注意の項参照。  
製品として法規制に該当しないが、含有する添加剤は、危険物第4類引火性液体第3石油類水溶性液体に該当する。

### 1 6. その他の情報

参考文献  
「労働安全衛生法対象物質全データ」化学工業日報社（2000年）  
「化学物質管理促進法対象物質全データ」化学工業日報社（2000年）  
ACGIH (7th, 2001)  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合 検索システム

制約事項  
記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。